

# 会 議 録 (要旨)

会議名	田川市新中学校のあり方に関する審議会 第12回会議
開催日時	平成27年11月26日(木) 15時00分～17時00分
開催場所	田川市民会館 講座室1-1
出席者	(委員) 神谷委員、四戸委員、大宅委員、二場委員、兒島委員、中山委員 穂山委員、浦野委員、加治委員、森委員、財津委員 (事務局) 吉柳教育長、和田教育部長、小林学校教育課長、森本教育総務課長 永岡文化課長、樋口学校教育課長補佐、坂井文化課長補佐 犬丸学校適正規模推進室長、大久保学校教育課主任

審議事項	審議内容
[ 審議資料 1 ] 学校位置を考えるⅡ	<p><b>【事務局の説明】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校位置を考えるにあたり、前回までの会議で示した学校敷の有効面積、周辺所有地、通学距離等の諸条件を集約して資料にまとめた。</li> <li>校区間の通学距離の矛盾（隣の校区の学校のほうが近い地域が生じる状態。以下「校区矛盾」という）等、現段階の候補地の組み合わせにより生じる課題を提示した。</li> </ul> <p>※ 仮定した2つの校区の新中学校は、議事進行の都合により、それぞれ「東中学校」「西中学校」という仮称にしている。</p> <p><b>【委員の質問・意見】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 校区矛盾が多少あるのは仕方ないと思う。仮に田川中学校が西中学校の適地になった場合、金川小校区全体が東中学校より西中学校に近い状態になるので工夫する余地はある。</li> <li>② 東中学校と西中学校の学校間の距離が近くなれば、校区矛盾地域が今より広がることは資料より明らかである。その地域の人は不満を感じると思う。学校間にある程度距離があれば市民の理解も得やすいのではないか。校区矛盾が今以上に増えることは避けたほうがよい。</li> <li>③ 通学距離が遠くなくても、交通手段をしっかりと考えてもらえれば、保護者の理解は得られると思う。</li> <li>④ 中央中学校の敷地を見たが狭いと感じた。新中学校になれば生徒数が増えるが、学校敷は生徒たちがのびのびと学校生活を送れる広さを確保してあげたいと思う。</li> <li>⑤ 田川市で若い世代が家を建てようと考えるときに、小学校や中学校までの距離をどの程度立地条件として重視するものなのか。</li> <li>⑥ 私は家を建てるときに学校までの距離も考慮した。実際に子どもを小学校に通わせている今時点では通学距離が近いほうが良いと感じる。しかし中学校は、子どもが通いたいのであれば遠くても通わせたい。</li> <li>⑦ 小学校においても学力のレベルが高い学校に通わせたい等の理由で校区外の学校へ通わせているという話も聞く。</li> </ol>

審議事項	審議内容
<p>[審議資料 2] 魅力ある学校づくり</p>	<p><b>【事務局の説明】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 審議会は、中間答申において、新中学校を地域や保護者にとって魅力ある学校にしたいと述べている。とりわけ保護者が新中学校に「子どもの豊かな将来像」が描けるかを視点にして、「教育の質」を議論していくとしている。</li> <li>・ 「魅力ある学校づくり」を考えるにあたり、今ある教育課題やこれから求められる学力等を認識し、新中学校でどのような人物を育てるかを考えいきたい。その人物像と力を育むための施策を資料に例示した。</li> </ul> <p><b>【委員の質問・意見】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 今回の中学校再編は、小規模校の解消だけでなく、本市が抱える教育上の課題を解消する一つのきっかけとしたい。子どもの学校教育も大事だが、家庭教育に対する保護者の意識改革も必要だと感じる。</li> <li>② 教育課題のひとつである貧困の連鎖について、例示された施策からは解決していけるイメージが湧かない。具体策のイメージはあるのか。</li> <li>③ 家庭教育は重要であり、保護者の意識改革も重要であるが、貧困だけが学力が低い理由ではないと思う。PTAや地域など、周りが家庭教育を支援していく仕組みを構築する必要があると思う。</li> <li>④ 家庭の事情や親の身勝手な理由で学校を休まざるを得ない子どももいる。そういう家庭では、勉強をしたくてもできない子どももいる。家庭の貧困は、学力や進学率に色々な形で影響していると思う。保護者を見ると、学校行事や地域行事にほとんど参加しない人もいる。PTAや地域で支援したり、意識を変えてたりしていくには、そういう保護者を輪の中にどう巻き込んで行くかが課題である。</li> <li>⑤ 魅力ある学校をつくるには、生徒の目線から学校がどう変わるのかを整理しなければならない。私立や県立の中学校を目指すような学力の高い子どもが、市立中学校でも十分満足いくような学習環境を整備する必要もある。</li> <li>⑥ 例に挙げられている英語検定の奨励や数学オリンピックの開催は、学力の高い子どもにとって発展的な学習に繋がる。自分の力を発揮できる機会にもなる。</li> <li>⑦ ICT（情報通信技術）教育を積極的に導入していく必要があるのではないかと。文部科学省の財政的支援が得られないのであれば、市独自で再編とあわせて大幅な導入を検討してはどうか。情報処理能力の有無は、就職にも大きく影響する。</li> <li>⑧ 情報通信技術は日進月歩であり、今主流となっている機器やソフトウェアを使いこなせれば将来安泰ということにはならない。必要なのは、子どもたちが新しいことにチャレンジする能力を身につけることである。ICT環境さえ整備すれば、子どもたちのよい将来につながるという考えには懐疑的である。</li> <li>⑨ ICT機器の導入方法は授業のやり方が前提となる。反転授業（授業の動画を入れたタブレット端末を自宅に持ち帰って予め学習し、学校で授業を受ける）を導入するのであれば、タブレット導入が必要となる。</li> <li>⑩ ICT教育を大幅導入するのであれば、機器の議論よりマンパワーの議論が必要である。教員がICT教育に取り組んでいけるだけのパワーがあるかどうか問題となる。</li> </ol>

審議事項	審議内容
<p>[審議資料 2] 魅力ある学校 づくり</p>	<p>⑪ 部活動についても同じことがいえるが、何かに特化した教育活動を成功させるには、いかに優れた指導者を呼び寄せるかにかかっていると思う。仮にサッカーの元プロ選手を部活動の指導者として招聘できれば、その学校に通いたいと思う子が増えるのではないか。魅力ある学校づくりの青写真には、そういう部分が見える必要があるのではないか。</p> <p>⑫ 文部科学省が構想を練っている「チーム学校」は、SSW（スクールソーシャルワーカー）やスクールカウンセラーなど、教員以外の人材を学校に配置するものである。再編すればこのような専門的なスキルを持った人材を市独自で雇用することも考えられる。</p> <p>⑬ 本市は既に地方創生の総合戦略を策定しており、その中には教育にかかわる事業もある。子どもたちにかかわる事業については、市長部局と教育委員会が連携して取り組むことが重要である。オリンピックの合宿地誘致などは、子どもたちの世界観や視野を広めるのに有効である。</p> <p>⑭ 今日の議論は新中学校に魅力を持たせる施策の議論である。今ある教育課題を解消することは重要だが、再編しなくても実施できるものとできないものは整理して議論すべきである。再編と関係がある施策でなければ、一般市民には理解が得られないのではないか。再編すればより充実できるという施策なら議論に含めてもよいと思う。</p> <p><b>【事務局の回答・意見】</b> ※番号は委員の質問番号に対応</p> <p>② 自立する力を高めるためにキャリア教育に力を入れ、将来的な展望を見出していければと考えている。</p>
<p>その他について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次回会議は、後日調整をして開催することとした。</li> <li>・本日の資料はホームページに公開することとした。</li> </ul>